

3月のアルミレポートおよび4月の見通し(上)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予測レンジ

LME	現物後場買い1400-1600ドル ● 変わらず
スクラップ	0から+5円(前月最終価格より) ● 変わらず
為替	109-115円(一か月間TTS) ▲ 円高

■概況

前半は、ロシアが1月水準での生産凍結を実施することを明らかにしたこと、ECBの景気刺激策期待や中国株の上昇、原油の上昇、中国全人代への期待、サウジアラビア、ロシアなど主な産油国が増産凍結に向けて追加協議する。世界的な生産調整が進むとの思惑などのプラス材料もあったが、中国国家统计局発表の2月の製造業PMIが4.9と7カ月連続で50を割り込んだものの昨年10-12月期の日本のGDPが前の四半期と比べて0.4%減、年あたりの換算で1.4%減となり、2015年4-6月期以来のマイナス成長に沈んだ事、2月の中国貿易収支が悪化した事、イランのザンギャネ石油相が「同国の原油生産量が日量400万バレルに達するまでは増産凍結に合意しない」と述べたと伝わったことなどを嫌気しDOWN。

3月15日時点1525ドル(現物後場買い)と月初価格から79ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、複数の米金融当局者が4月利上げの可能性に言及していること、クウェートの石油相が2014年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したことなどのマイナス材料もあったが、OPECやロシアなどの主要産油国で4月17日にカタールのドーハで会合を開き、増産凍結について協議するとの報を受け、ニューヨーク原油先物相場は17日に1バレル40ドル台を回復し、約3カ月半ぶりの高値を付けたことを好感しUP。

4月6日現在LME(現物後場)1502ドルと後半スタート価格から7ドルUPしてのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)

113.65 → 113.38(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-6.9%の76万6804台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-3.2%の40万4813台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+7.8%の7万2831戸であった。

◆貿易指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比+106.4%の97t、2次合金が-142.6%の1946t、

スクラップが+60.2%の9261tアルミ缶が+215.4%の3731t。

輸入

輸入は新地金が前年比-16.8%の10万92521t、2次合金が-8.7%の8万5780t、スクラップが-53.1%の506t、合金スクラップは-60%の2694t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+2.3%の16万4756t

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比-1.2%の6万5063であった。

■概況

【自動車生産】

2月の四輪車生産台数は766,804台で、前年同月の823,864台に比べて57,060台・6.9%の減少となり、3カ月連続で前年同月を下回った。

2月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。乗用車-651,663台で46,804台・6.7%の減少となり、3カ月連続のマイナス。このうち普通車は393,694台で5,369台・1.3%の減少、小型四輪車は127,330台で12,459台・8.9%の減少、軽四輪車は130,639台で28,976台・18.2%の減少。

トラック-105,578台で8,307台・7.3%の減少となり、10カ月連続のマイナス。このうち普通車は45,991台で4,817台・9.5%の減少、小型四輪車は27,513台で2,409台・8.1%の減少。軽四輪車は32,074台で1,081台・3.3%の減少。

バス-9,563台で1,949台・16.9%の減少となり、3カ月連続のマイナス。このうち大型は1,001台で19台・1.9%の増加、小型は8,562台で1,968台・18.7%の減少。

2月の国内需要は451,330台で、前年同月比6.4%の減少であった。(うち乗用車382,116台で前年同月比7.5%の減少、トラック67,852台で同0.1%の減少、バス1,362台で同37.4%の増加。)輸出は前年同月比1.0%の増加。(実績)

【自動車販売】

3月の国内自動車販売台数(軽は除く)は40万4813台で前年比-3.2%。2か月連続マイナス。

内 乗用車 -2.7%

貨物 -6.3%

バス +5.1%

【住宅着工数】

・平成28年2月の住宅着工戸数は72,831戸で、前年同月比で7.8%増となった。また、季節調整済年率換算値では97.4万戸(前月比11.6%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整値についても前月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、

このところ横ばいの傾向となっていたが、2月は前年同月比で2か月連続の増加となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では3か月ぶりの増加(前年同月比0.8%増、季節調整値の前月比では5.6%増)。

(貸家)

前年同月比では4か月連続の増加(前年同月比12.5%増、季節調整値の前月比では10.9%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では3か月ぶりの増加(前年同月比9.6%増、季節調整値の前月比では15.0%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では6か月ぶりの増加(前年同月比9.9%増)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では4か月連続の増加(前年同月比10.1%増)。

※後半は明日以降の紙面にて掲載させていただきます。

鋳物用銅合金地金



J I S H 2202 認証番号 QA0407021
日本工業規格認証工場

ISO9001認証取得

製造元 **ミカゲ金属工業(株)**

〒514 三重県津市安濃町安濃字日暮2222-2
-2302 電話 059-268-2206 代表
F A X 059-268-1949

ISO9001認証取得

発売元 **ミカゲ金属(株)**

大阪本部

〒541 大阪市中央区博労町3-6-7三都ビル206
-0059 電話 06-6244-3115 代表
F A X 06-6244-3116

東大阪倉庫

〒577 東大阪市長堂3-11-20
-0056 電話 06-6782-3115 代表
F A X 06-6782-3143

日本伸銅協会 ホームページをリニューアル



日本伸銅協会(会長・松下彰UACJ銅管社長)は、今年度4月1日よりホームページをリニューアルした。新しいメニューは、◎協会案内:協

会の概要や会員名簿、案内図、◎伸銅品について:歴史や製造、用途、産業としての伸銅品や銅の紹介、◎調査・統計:統計ポイントや関税率など、◎技術:規格関連、データベースへのリンク、◎環境・安全:SDS、環境・安全など、◎日本銅学会:学会の概要と活動についてなど、見やすく刷新されている。

またニュース項目を協会、銅学会、関係官庁のお知らせの3つに分けて、知りたい情報がわかりやすく見れるよう工夫されている。日本伸銅協会のURLは(<http://copper-brass.gr.jp/>)

田中貴金属記念財団 研究助成金の受賞者を発表 筑波大石講師に「ゴールド賞」

田中貴金属財団は7日、15年度の「貴金属に係わる研究助成金」の受賞者を発表した。今回、200万円を授与される「ゴールド賞」には、筑波大学の大石基講師による研究「金ナノ粒子海面における化学反応を利用した好感度・簡易バイオセンサの開発」が決定した。また今年度新たに設けられた「萌芽賞」は、関西学院大学の安田充博士研究員と、東京大学の横田知之特任助教への授与が決定、「シルバー賞」には、4件研究が採択となった。

「ゴールド賞」を受賞した筑波大学の大石基講師による研究「金ナノ粒子海面における化学反応を利用した好感度・簡易バイオセンサの開発」は、マイクロRNAを酵素や装置を用いずに、直接、高感度かつ簡便に検出留守ことを試みた

もの。近年、マイクロRNAは様々な疾患に関与していることが明らかになっており、その判定の重要性が認識されつつある。マイクロRNAを測定するためのDNAを金ナノ粒子に固定化することで、血中のエクソソーム内のマイクロRNAを目視かつ高感度に測定できる研究成果が、評価されての受賞である。

田中貴金属グループでは、同助成金制度を「貴金属が拓く新しい世界」へのさまざまなチャレンジを支援するためのものとして、1999年から毎年実施している。今回も貴金属が貢献できる新しい技術や研究・開発に対して、あらゆる分野から研究を募集し、合計154件の応募があり、この中から合計34件の研究に対し、総額1140万円の研究助成金を授与する。